

安房高等女学校木造校舎を愛する会

会報 第10号

(安房南高等学校 旧第一校舎・千葉県指定有形文化財)

2025. 7. 10.



【会員募集中】 年会費 1,000 円

ゆうちょ銀行 振替払込 00270-4-87431

名義：安房高等女学校木造校舎を愛する会

事務局：NPO 法人安房文化遺産フォーラム

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1

TEL&FAX 0470-22-8271 Eメール awabunka@awa.or.jp

◎ 旧安房南高校 木造校舎の保存活用に関する要望書を県に提出しました。

引き続き署名の協力をお願いいたします！

学校統合から 18 年。文化財校舎の放置と劣化を懸念し、修復・塗装などの適切な保存、活用と国指定文化財への格上げを要望する署名 3,156 筆（用紙 1,665+オンライン 1,491）を 3 月 6 日に、千葉県知事と教育長あてに提出しました。引き続き世論の声を高めていきましょう。家族友人知人から集めた署名用紙は、郵送または FAX で事務局へお送りください。オンライン署名は、記事内の QR コードから賛同をお願いいたします。

「女子教育の殿堂」 ぜひ！ 国の文化財に

安房南高校
旧第一校舎

保存活用と国文化財格上げ求め

館山

県と県教委に要望書



要望書と署名を県職員に手渡す関係者ら＝館山

2 団体が 3156 筆の署名とともに

NPO 法人安房文化遺産フォーラム（愛沢伸雄代表）と安房高等女学校木造校舎を愛する会（片方義明会長）は 6 日、館山市北条の県指定文化財「安房南高等学校旧第一校舎」の保存活用および国指定文化財への格上げを求め、県と県教委に要望書と 3156 筆の署名を提出した。



同校舎は、関東大震災建設され、古い日本の要素が融合したデザインが特徴だ。1930 年に建築されたこの校舎は、中央玄関があり、左右対称に広がる外観が当時の学校建築の典型を示している。木造の階建ての構造は欄間付き格子窓が並び、開放的な雰囲気を感じさせている。95 年 3 月に県指定の文化財となった。

校舎は 2008 年に財を生かしたまちづくり学校統合により閉校の一端として、国指定文化財への格上げの必要も訴えている。その後、校舎を管理する県教委は一般公開を行ってきただけで、18 年からは地元安房文化遺産フォーラムが県教委から委託を受け、安房高等女学校木造校舎を財課の職員に手渡し愛する会と協力して、校舎の公開を実施してきた。23 年の公開には地域内外から約 760 人が訪れ、校舎内に残る貴重な教育資料などを見学した。

しかし、24 年からは防火設備の問題で公開が中止され、現在は維持管理が行えない状況にある。西団体は、保存と適切な管理を求め、昨年 7 月から署名活動を開始。用紙とオンラインで計 3156 筆の署名が集まった。また、要望書には、他地域の先進事例を参考に、文化財として保存・活用す

片方会長は、「一般公開で訪れた卒業生たちの喜ぶ姿が忘れられない。また、来場者校舎の開放を表現してほしい。また、来場者の笑顔が見たい」と述べた。また、愛沢代表は「校舎は地域にとって魅力的なランドマーク的存在であり、文化的価値を高めることには地域活性化につながる」と語った。

両団体では引き続き多くの市民らに賛同を得るべく署名活動を展開している。オンラインでの署名は二次元コード画像から署名についての問い合わせは、池田恵美子さん（090・6479・3498）へ。

房日新聞 2025.3.9付

※ 新聞活字は、木造校舎を愛する会ホームページから見られます。

「安房高等女学校木造校舎」有志ら署名活動



旧県立安房南高校の第一校舎と、「安房高等女学校木造校舎を愛する会」のメンバー＝館山市北条

県指定有形文化財の旧県立安房南高校（館山市北条）の第一校舎を補修など適切に保存して活用し、国指定文化財へ格上げしてほしいと、NPO 法人安房文化遺産フォーラムと「安房高等女学校木造校舎を愛する会」が 6 日、1 万人を事務局として 2017 年に発足。敷地の草刈りや校舎の清掃、また調査、記録などの

活動を続けている。同会によると、旧第一校舎は、関東大震災を教訓に技術の粋を集め、和洋折衷で優れた意匠を施された。左右対称に大きく羽を広げた白鳥のように美しい姿は、女子教育の殿堂にふさわしいとされた。戦後、安房南高となった。

鉄筋造りに変わる時代に、保存された木造の旧第一校舎は、1995 年に県指定有形文化財となった。だが、2008 年の学校統合で閉校し、日常には使われなくなっていた。同校には、明治期以降に先駆的な女子教育が果たされてきたことなどの貴重な教育資料も多

高く、木造校舎は学校博物館としての活用も期待される。一方で閉校から時がたち、校舎は塗装の剥げや損傷が進んでいる。同会は、県から委託を受けていた見学会が 24 年度から中止になり、文化財建物の放置と劣化を懸念して署名運動を展開。要望書は「市、県、国と地域住民が一体となって文化遺産を未来に継承するため、国指定文化財への格上げを要望する」としている。

要望書に添えられた署名は紙、オンラインで計 3156 人分。引き続き署名を募っている。オンライン署名は QR コードから。問い合わせは、安房文化遺産フォーラムの池田恵美子さん（電話 090・6479・3498）へ。

館山に 1930 年建築 白鳥のような美観

0 (6479) 3498 へ。

新校舎建築へのあしどり 管理棟(木造校舎)保存の経緯 いきさつ

事務長 小川 晋

昭和53年度学年始めに、当時の丸山校長から、「本年度は校舎改築について期成会と共に促進して行きたい」旨発表があり、6月に第1回期成会役員会を開き、改築について協議会をもった。昭和初期の木造建築校舎は、県内に数少ないため県では補修し残したいという意向があるので、本校として第一校舎を残すかどうか意見を求めたところ「現場の先生方に支障がなければ残してほしい」という意見が出た。6月下旬に飯田前PTA会長ほか4名が出県し、県知事・県教育長・財務課長のもとへ改築促進方陳情をした。7月には、山田同窓会長、飯田PTA会長・校長・事務長の5名で佐倉高校の記念館(明治の建造物で昭和50年に全面改修し保存されている建物)を視察した。

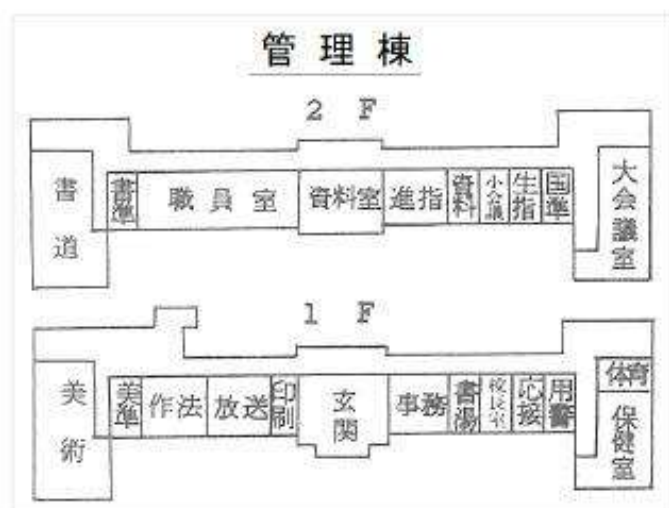
配置図を作成し県教委と折衝

昭和54年4月前校長丸山先生の後任として、県立検見川高校から中村浩校長が着任した。直ちに、校舎建築委員会が再編成され本格的に取りかかり、校舎の配置・第一校舎の残存について検討を加えながら県教委と折衝を続ける。配置については、現位置に旧寄宿舎・特別教室棟・進路指導室・更衣室など取り壊し、北側から鉄筋4階建特別教室棟を曳屋移築しその跡へ鉄筋4階建普通教室棟を建築し第一校舎を保存することになる。ただし、老朽度が著しく、補修が無理ということになれば取り壊しするので、この場合のことも考慮した案も作成された。6月下旬には、県営繕課の設計案も、学校側の要求をとり入れた教室配置図を作成した。6月4日から、業者による校地・校舎・植木の配置に至る詳細測量図が完成された。

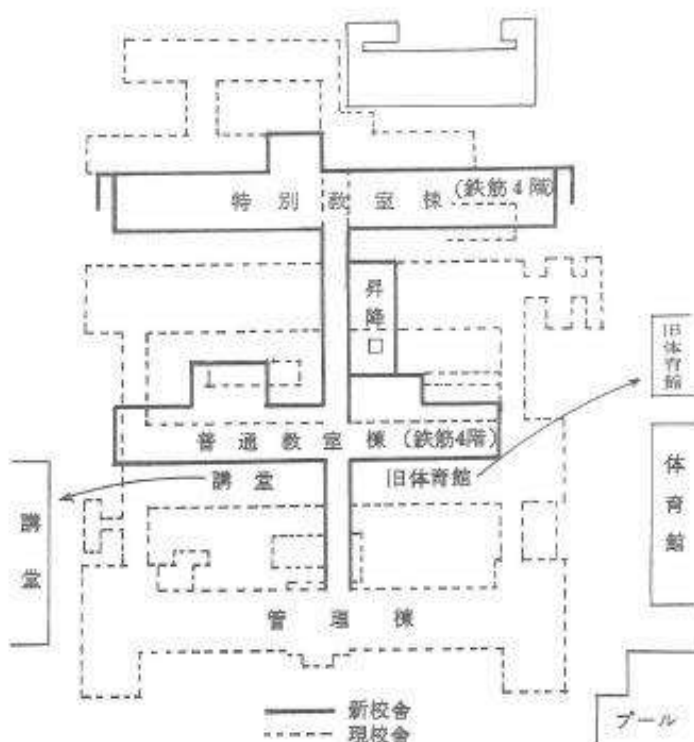
7月11・12日には県教育庁財務課黒川主幹ほか2名の技師による校舎の現況調査が行なわれた(主に取り壊しされる校舎)。講堂および旧体育館については天井裏から床下まで詳細に調査されたが結果については報告をうけ

ていない。工事についての今後の予想は1月頃から旧寄宿舎を取り壊し2月中に完了、特別教室棟を建築、完了後特別教室の引越、第二校舎を取り壊しする。同時に講堂・旧体育館の曳屋移築も行なわれ、第2期工事として普通教室棟の建築に移るものと思われる。なお、工事費などについては、国庫補助対象事業として申請される予定のため詳細は不明であるが十億円はくだらないだろう。

(PTA広報「みんなみ」第1号 1997.10.1)



校舎配置概要図



安房南高校旧第一校舎(管理棟木造校舎)

千葉県有形文化財に指定された^{いきさつ}経緯

第20代校長 渡邊 裕

私が南校に着任して、先ず感じたことは前庭の桜花と淡いピンク色の優美な木造校舎と調査のすばらしさでした。木造校舎は左右両翼に突出部を設け、中央で校舎本体から突き出た玄関のある左右対称の校舎で、玄関正面の屋根は尖ってなくて腰折れ風の破風でいかにも女子高校の校舎という印象を受けました。

そして、校舎に入ると廊下がよく掃除されており、飴色にピカピカ光っていて暖味があり、やすらぎを感じました。校舎内を回ると二階に昇る階段、手摺、二階の廊下、各室の床板ともよく掃除が行き届いていて皆飴色に光っていました。各室ともスペースが広く落ち着いた感じのする校舎という印象を強く受けました。また二階の作法室の和室からの眺めは校舎全面が四季折々に山茶花、桜、サツキ、秋の紅葉と季節感をよく現して実に良い眺めでした。

母校を訪問してくる高女時代、安房二校時代の方々から、そして最近の卒業生からもこの木造校舎に対する思い出をよく聞きました。この木造校舎が母校愛の源であり、先輩後輩の絆のように思われました。

しかしながらこの淡いピンク色の校舎も昭和56年に翌年の創立75周年記念式典に備えて塗装し、以来14年間も一度も塗装してないのでペンキも剥がれてワニザメの肌のようになってきました。業者に木造校舎の内外全面塗り替えの概算見積もりをしていただきましたところ約7千万円ということでした。

この額を踏まえて県教育委員会に全面塗装の依頼に行きましたが、予算がない、安房南高にだけ10年置きに7千万円もの支出はできない、一掃して鉄筋で建て替えることを考えてみてはということでした。

「誠の心で優しく強く」を校訓とし、万里小路通房の作詞による校歌「朝な夕なに打向かふ…誠の徳を磨けよと、この学び舎はたてられぬ、…楽しく学べ乙女子よ」と儀式的行事に歌い継がれ、また卒業式歌「(全体)四方の山々

霞みつつ花咲く春のかえり来ぬ、(卒業生) 嗚呼この春に巡り逢い…、(在校生) 学びの窓の雪蛍…、(卒業生) さらばよ (在校生) さらば (全体) いざさらば」と歌い継がれて、この木造校舎の学窓を去った卒業生を思うとき、どうしてもこの校舎を壊すわけにはいかない、と堅く心に決めました。

なんとかしなければと思案していた時期に、県下の古い建造物の調査がありました。本校には平成5年10月5日、県文化財保護審議委員の千葉大教授工学博士玉井哲雄先生一行が調査にこられました。

先生方の言では、「昭和初期に館山にこんなに素晴らしい洋館があったことは館山の文化度の高さを現して歴史的価値が高い。しかも耐震構造があり、様式は質実で形状あるいは色彩は簡素にして優美であり、当時の最新技術を使用した建造物である。今もこんなに綺麗に使用しているとは驚きました。生徒が使用している現状の儘で文化財の価値があります」ともおっしゃいました。

私は早速教育庁文化課に行き、この木造校舎の文化財指定の依頼をしてきました。そして文化財審議会の審議を経て本校の木造校舎が千葉県文化財保護条例に基づいて千葉県指定有形文化財に指定された次第です。これからもこの校舎を末永く綺麗に大事に使用して先輩達と同じ思いを寄せてこの学窓を巣立っていただきたい。

(「ひかり野」第2号 1997.10.31)



今年度も千葉県教育委員会の方針により、**安房南高校 木造校舎の公開事業（見学会）は休止**です。建物内には立ち入れませんが、**木造校舎を愛する会**では、**草刈りの環境整備のみ**年3回おこないます。

2025年 **7月20日** (日) 8:30～
" **10月12日** (日) 9:00～
2026年 **4月4日** (土) 9:00～

*雨天時は翌日に顺延します。
*各自で暑さ対策のうえ、刈払機や鎌などの道具のご持参をお願いします。

*館山市文化財保存活用地域計画

当会と安房文化遺産フォーラムの連名で、館山市・同教育委員会に提出してきた要望が実り、昨年度より「文化財保存活用地域計画」作成協議会が発足しました。

副会長の池田恵美子さんは当会事務局長です。安房南高校木造校舎も適切に位置づけられ、よりよい保存活用されるよう、期待が高まります。

日本建築学会千葉支所長の小島聡氏が、当会の相談役に就任してくださいました。心強いかぎりです。



館山市内にある文化財の保存と活用に向け、同市教育委員会は市文化財保存活用地域計画の作成作業を始めた。第1回計画作成協議会を開催し、委員13人を委嘱した。2026年7月の文化庁認定を目指している。

文化財保護の方針や具体的な事業の実施計画など定める計画。県内では現在、9市の計画が文化庁認定を受けている。安房地域では鴨川市がすでに計画作成作業を進めている。少子高齢化などを背景に、地域の貴重な文化財を後世に保存、伝えていく担い手の確保などが課題となる中、計画を通して地域の文化財への関心を高め、地域一体となって文化財の保存、活用を進めていこうという。

館山市には、小網寺の梵鐘や金銅密教法具（いずれも国指定重要文化財）、茂名の里芋

祭（国指定重要無形民俗文化財）など国、県、市の指定文化財が101件、国、県の登録文化財が16件ある。計画ではこうした指定文化財だけでなく、未指定の文化財の把握なども進め、保存・活用につなげていく。

計画作成協議会は、学識経験者や文化財所有者、商工、観光、行政関係者らで構成。市役所であった初回の会議では、石井浩己教育

長が各委員に委嘱状を交付し、計画作成への協力を求めた。

池田恵美子氏を選出。その後、計画作成の目的や運営方法、今後のスケジュールについて話し合った。

文化財の保存・活用へ

館山地域計画の作成始まる

房日新聞 2024.8.30.

今後、来年度までの2年間で5回の会議を開催し、26年3月に計画を完成させ、同年7月の文化庁認定を目指している。

また、計画に多様な意見を反映するため、市民や市にゆかりのある人を対象にアンケートも実施する。アンケートは専用フォームから

会長には、千葉経済大学教授の菅根幸裕氏、副会長にはNPO法人安房文化遺産フォーラム共同代表の

紙からも回答できる。期間は9月30日まで。

第67回千葉県母親大会 in 安房

第31回安房地域母親大会 共催



2025年11月9日(日) 南総文化ホール 大ホール

10:00～11:45 映画『赤い鯨と白い蛇』上映

13:00～15:30 地域報告：池田恵美子 (NPO 法人安房文化遺産フォーラム)

記念講演：児玉三智子 (ノーベル平和賞・被団協事務局長)

協力会員券 1,000円 <要予約> 090-6479-3498 池田/090-9342-3638 関>

⇒ オンライン申込 <https://chiba-hahaoyataikai-awa.peatix.com> (QR)

戦時中に安房高等女学校の学生だった**せんぼんよしこ**監督が、女性目線から命と平和を描いた作品です。戦時中の館山に疎開していた主人公(香川京子さん)をはじめ、世代の異なる5人の女性たちが、現代社会のなかで「自分に正直に生きる」ことの難しさと大切さを伝えてくれています。何度も鑑賞するたびに、新鮮な気づきと感動がある、味わい深い作品です。

美しい館山の風景とともに、安房南高校木造校舎や「やわたんまち」(八幡祭礼)が彩りを添えます。木造校舎を愛する会の皆様も活動の一環として、ご家族友人と一緒に鑑賞ください。

戦後80年の節目に、午後の記念講演もぜひご拝聴ください。

赤い鯨と白い蛇

製作総指揮：香川京子 脚本：菅川文文 監督：せんぼんよしこ



坂野真理 浅田美代子 香川京子 樹木希林 宮地真緒